２０２３年 2月15日
第139号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 助川一実
編 集 情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

2月15日号

昨年夏、北海道を3泊4日で旅行した。函館から登別を経て帯広までの移動距離が長い行程で、帯広ではレンタカーを借りて十勝平野を観光した。北海道らしい雄大な眺望と、本州の酷暑を忘れさせる過ごしやすい気候が、旅をより楽しいものにしてくれた。

この旅では、都市間の移動に特急列車を利用した。利用客で座席が埋まり、さらに途中で貨物列車とも多くすれ違った。移動手段・輸送手段としての鉄道が生きている姿を見た。旅の最後は、レンタカーを借りて、一日をかけ十勝平野を南北に観光した。車の窓越しから、ところどころで士幌線と広尾線の遺構を目にした。広尾では、そこに駅があったのだと納得できるような街並みがあり、ポカンと空いた駅の跡地に鉄道公園とバスロータリーが残っていた。

ちょうど1年前、国土交通省は「鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会」を立ち上げた。その流れを待っていたかのように、鉄道各社は路線の存続議論や収支状況の公表を行った。今春も北海道の留萌線の一部区間が廃線になると報道されている。国鉄改革では広域異動で苦労された鉄道の先輩も多く見てきた。

交通網の将来は、経営者、自治体・住民、鉄道・物流労働者、観光客など、さまざまな視点から議論を尽くし、納得感ある「あり方」を導いていくべきと思う。

仕事や地域にこだわることが働きがいとなるのは私だけではないだろう。将来の世代まで関わる問題を私たちも議論していこう。（J・Y）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。